

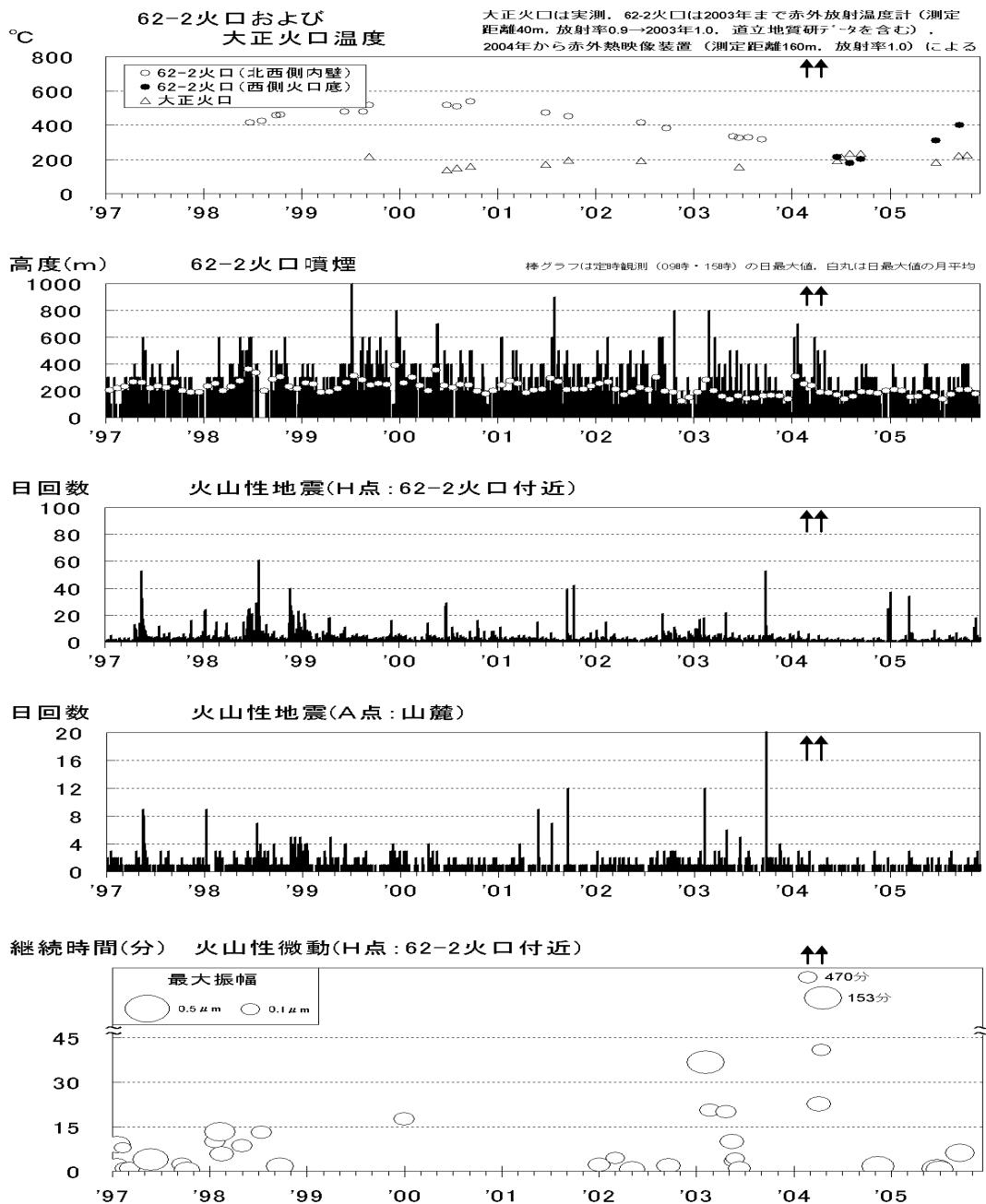
十勝岳

1 概況

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いていると推定されます。火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 200 m で経過しました。



最近の火山活動経過図 (1997 年 1 月 1 日～2005 年 11 月 30 日) ↑印はごく小規模な噴火

十勝岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。

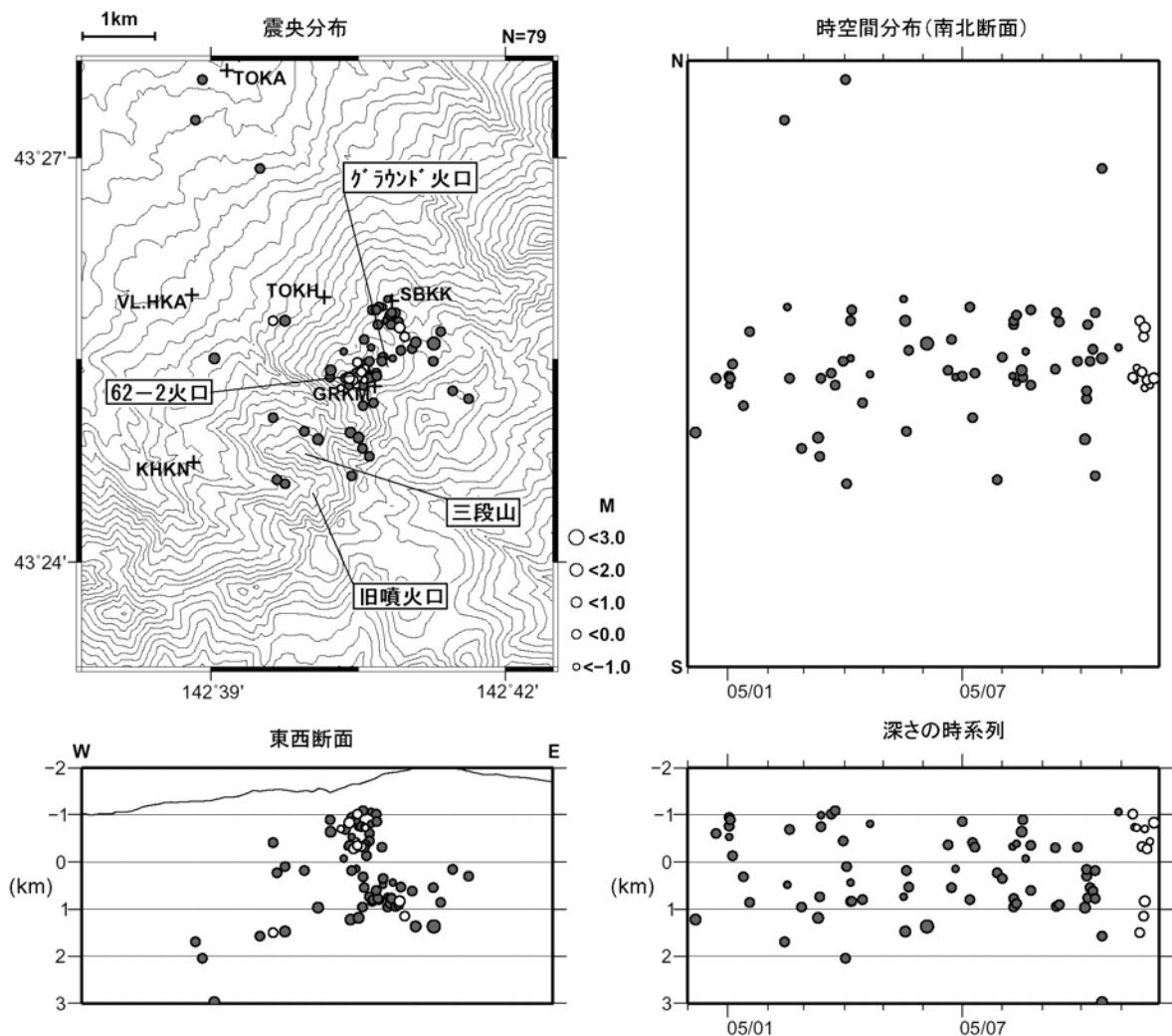
3 地震および微動の発生状況

13～14 日にかけて 62-2 火口付近が震源と推定される微小な地震が一時的にややまとまって発生しましたが、その他の日はおおむね平常レベルで経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数 (H点：火口付近の観測点 A点：山麓の観測点)

2004～2005 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
地震回数H点	30	60	20	86	14	14	26	17	41	29	25	78
地震回数A点	4	4	2	11	4	5	3	4	13	2	6	13
微動回数H点	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0



十勝岳の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点、気象庁と北海道のデータを使用)

○印は今期間 (2005 年 11 月 1 日～30 日) に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間 (2004 年 12 月 1 日～2005 年 10 月 31 日) に求まった震源を示しています。

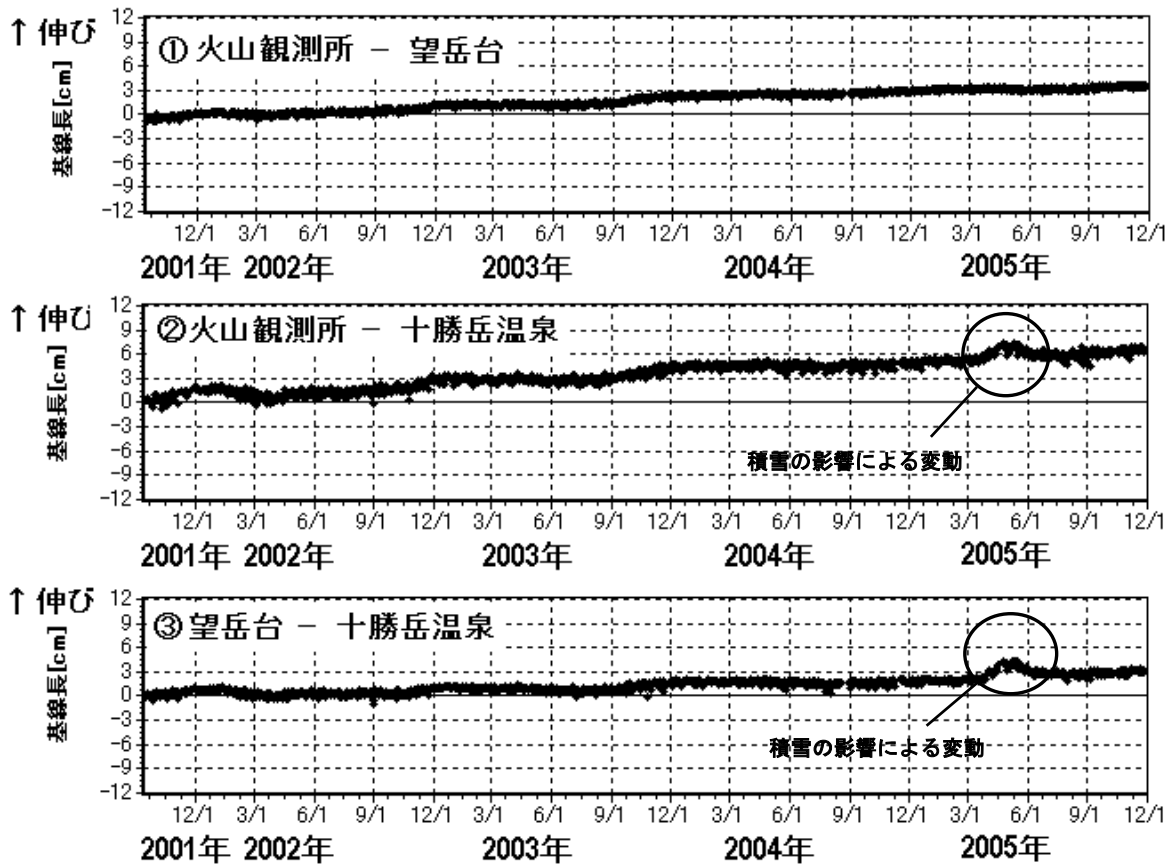
震源はグラウンド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅部 (海面上 1km～海面下 1km 程度) に集中しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

震源分布図の説明

- ・東西断面：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化 (2001 年 9 月 13 日 ~ 2005 年 11 月 30 日)

